

研究ノート

## 堂号について

上江洲 敏夫

### I

昭和56・57年の両年にわたり、文化庁の国庫補助事業の一貫として、「扁額・聯等遺品調査」と銘打った歴史資料調査が、沖縄県教育委員会（事業主体は教育庁文化課）で行われた。これは調査名称でも明らかなように、県内に現存する扁額・聯および書幅などを対象に調査が実施されたもので、その成果は歴史資料調査IV『扁額・聯等遺品調査報告書』（沖縄県文化財調査報告書 第14号）として昭和58年3月に刊行されている。私も昭和56年には担当職員として、昭和57年には調査員の一人として調査に参加する機会を得た。調査は当該物件の実測・写真撮影はもちろんのこと、扁額・聯は調査物件のすべての拓本も採ることになった。

この調査を通じて堂号ということに、大きな関心を示すことになった。その引き金になったのは、沖縄の民俗社会を理解するための基本的な資料の一つに数えられる『四本堂家礼』（『蔡家家憲』あるいは『四本堂規模帳』ともいう）に興味をもったことに始まる。「四本堂」というのは蔡氏の堂号であるらしいこと、扁額に「○○堂」というのが存在することや書幅の關防印にも堂号が使用されていることなどを確認することができた。また、家譜のなかに堂号に関する記事があり、堂号の登場が18世紀ごろであるらしいということも推測できた。

ここで示した堂号は、「扁額・聯等遺品調査」で確認したものが大半であり、この研究ノートもその成果の一部としての紹介であることを断っておきたい。また、書幅・聯などの關防印については、初年度の調査の際、石垣市立八重山博物館館長波名城泰雄氏に印文を判読していただいたことに謝意を表したい。また、この小稿を草するにあたって「扁額・聯等遺品調査報告書」に収録された書幅・聯の關防印の印文などを参考にしたことをおきたい。

## II

堂号というのは、いったいどういうものであろうか。前述のように扁額に仕立てられたものや書幅の閑防印に使用されている事例が多いことは、後述の一覧表で明らかであろう。問題は堂号が家単位あるいは一族の祠堂に伴うものであるのか、それとも個人が堂号をもっていたのかということである。一覧表を見れば一目瞭然であるが、尚（向）氏一族が「淵」の字で統一されたり、鄭氏一族が「徳」の字を用いていることである。現在一族が堂号の一字を統一したという事例が確認されたのはこの二例だけであるので、即断は避けなければならないが、少なくとも一族意識がその底流にはたらいたことは明らかである。では、個人的に堂号をもっていたという事例は確認されるであろうか。この件について、島尻勝太郎先生は、尚氏一族の祠堂「淵」の字をつける事例があることに言及したあと、「この祠堂に名付ける堂号の外に、学者文人の書室につける堂号もあったと考えられる。四本堂詩や四知堂詩稿のあることから推測できるのではないか」と個人の堂号が存在したのではないかと推測している（「扁額・聯・書幅概説」『扁額・聯等遺品調査報告書』所収）。中国や日本でも書室に扁額などを掛けることがあったということであるので、あるいは堂号のなかには、島尻先生が推測しているように個人の堂号があった可能性は考えられるのではないか。ただし、堂号をつくった本来の目的は、やはり一族の結束を促し、同族意識を高めるためのものではなかったかと思われる。

そのことを理解するために、「淵」の一字をつけた向氏一族のことについて触れておきたい。『那霸市史』家譜資料(三)には首里系家譜を集成しているが、そのなかに向姓関係の家譜が数冊収録されている。まず、向氏一族の堂号の由来について記した記録を下記に示すことにする。

聖主(尚敬王)の深慮(しんりょ)を蒙(こうむ)りて、向氏の家、世を逐(お)いて支分繁昌すること甚だ多し。家俗各々異なりて、万水一源の風を損なうことを恐れるなり。乃ち向氏員等に均しく王廟(おうびょう)の淵(えん)字を用いさせ、各々祠堂(しどう)に名づけ、奕世(えきせい)に伝えて、以て家俗を齊(ととの)えん。臣宣謨(せんも)、謹んで諭旨(ゆし)を奉じ、即ち我が堂を名づけて徹淵(てつえん)と曰う。

これは今帰仁王子宣謨の条に出てくる一節であり、ほかの記事も大同小異である。これらの記事を概観して共通する点をあげてみると、①これは「万水一源の風を損なうことを恐れた」尚敬王が、後世に伝えるために諭旨したものであること。②王廟の扁額「龍淵」にちなんですべてに「淵」の字を用いたこと。③堂号が名付けられたのは、雍正10年(尚敬20,1732)のことである。④一例だけ7世というのが確認されるが、そのほかはすべて1世に与えられていることなどである。ただし、義村王子朝宣(尚周)は乾隆28年(1763年)の生まれであるが、同王子を1世とする義村家の家譜のなかには堂号に関する記録はない。

### III

堂号は扁額に仕立てられたり、書幅や聯などの閑防印などに使用されたことは前述した通りであるが、扁額は祠堂（仏壇）や神棚、あるいは床の間などにかけるのが一般的である。しかし、前に示した『向姓家譜』から明らかのように、本来は祠堂にかけたとみるべきであろう。事実、八重山の旧家で見かけたのは、仏壇の上の横柱に扁額をかけ、両サイドの柱に聯がかけてあった。

扁額には筆者名が刻されていることもある。現存するものを見てみると、沖縄の能書家として有名な鄭嘉訓がもっとも多い。また、沖縄ならではのことは、冊封使やその従客などの揮毫によるものがある。県立博物館蔵の扁額「善淵堂」は、尚穆王の冊封副使・周煌の従客として1756年に来琉した王文治（王夢樓）の筆によるもので、向氏小禄家の堂号である。また、平良市仲宗根家蔵の「忠導堂」は周煌筆の扁額である。今次大戦で多くのものが消失してしまって、現存資料が比較的少ないが、冊封使一行が来琉すると、好んで字を書いてもらったということであるので、彼らが書いた扁額も多かったのではないかと思われる。阿波連家の『金氏家譜』には、やはり周煌から「嘉瑞堂」の字一面と楷書の字二張を賞賜された記事が見えている。これらの扁額は那覇の若狭町で彫って、仕立てたものであろう。

つぎに書幅や聯の閑防印について触れておきたい。閑防印というのは、絵画や書幅・扁額・聯などの右肩に押したり刻したりする印章のことである。あとで示す「閑防印堂号」一覧でも明らかのように、現存する書幅や聯の閑防印を調べてみると、比較的多くの閑防印が確認されていることがわかるであろうし、この数は今後増えていくことは十分予想される。これらの堂号を見ると、同じ堂号を使用している事例が存在することがわかる。鄭氏の事例から判断すると、たとえば直系の場合は同一の堂号を使用するが、傍系になると「徳」の字を使用した堂号を新たに用いたことがわかる。ところで、堂号を新たにつくる場合、同一氏族であれば共通するまんなかの一字を使用すればよいのであるが、まったくの新調のときに何を指標としたのかは明らかではない。ついでに申し述べておくと、沖縄の書幅かどうかを判断する一つの基準として、閑防印をチェックすることにより判明することがある。すなわち、沖縄関係の書幅であれば、閑防印に堂号が捺印されていることが多いので、有力な手掛りとなる場合がある。

以上、扁額や聯・書幅などの閑防印から堂号について言及してみた。確認した資料の量はそれほど多いというほどでもないので、今後新たに資料を増やすことも必要なことである。このノートはこれまでに確認された堂号をもとに、手元にある資料を使って考察しただけで、扁額・聯・書幅・家譜等を詳細に検討したものではないので、これらの資料をチェックする必要があることを記しておく。

## 扁額堂号

| No | 堂号名 | 堂号名      | 筆者名             | 備考      |
|----|-----|----------|-----------------|---------|
| 1  | 善淵堂 | 向氏小祿家堂号  | 王文治筆            | 県立博物館蔵  |
| 2  | 道淵堂 | 向氏美里家堂号  |                 | 大城清孝氏蔵  |
| 3  | 義淵堂 | 伊是名銘苅家堂号 | 伊江王子尚健筆との伝承あり   | 銘苅トヨ氏蔵  |
| 4  | 善淵堂 |          | 向有恒（宜湾朝保）筆      | 本村敏子氏蔵  |
| 5  | 元勲堂 |          | 豊肇基（知念筑登之親雲上金巨） | 仲宗根玄吉氏蔵 |
| 6  | 忠導堂 | 仲宗根家堂号   | 周煌筆             | 仲宗根玄吉氏蔵 |
| 7  | 五惇堂 | 石垣家堂号    | 鄭嘉訓筆            | 石垣長夫氏蔵  |
| 8  | 積善堂 | 宮良家堂号    | 鄭嘉訓筆            | 宮良當房氏蔵  |
| 9  | 積善堂 |          | 鄭嘉訓筆            | 仲本正貴氏蔵  |
| 10 | 世祿堂 |          |                 | 『写真集沖縄』 |

## 關防印堂号

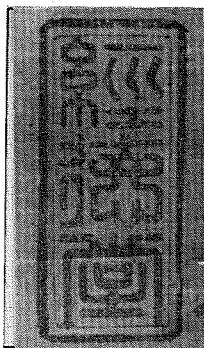
\*印は家譜あり

| No | 堂号名 | 堂号使用者         | No | 堂号名 | 堂号使用者         |
|----|-----|---------------|----|-----|---------------|
| 1  | 源淵堂 | 尚元魯（浦添王子朝熹）   | 13 | 經德堂 | 鄭嘉訓（古波藏親方）*   |
| 2  | 宗淵堂 | 向永弼           | 14 | 經德堂 | 鄭其昌*          |
| 3  | 宗淵堂 | 尚慎（玉川王子）      | 15 | 經德堂 | 鄭元觀*          |
| 4  | 湛淵堂 | 向延翰           | 16 | 慈德堂 | 鄭德潤           |
| 5  | 湛淵堂 | 向延翰（玉城親雲上朝嘉）* | 17 | 振德堂 | 梁國治*          |
| 6  | 雲淵堂 | 尚健（伊江王子朝直）    | 18 | 雅德堂 | 阮宣詔*          |
| 7  | 雲淵堂 | 向世俊*          | 19 | □徳堂 | 林世爵           |
| 8  | 雲淵堂 | 向篤忠           | 20 | 建元堂 | 豊肇基（知念筑登之親雲上） |
| 9  | 善淵堂 | 向兆麟           | 21 | 光裕堂 | 毛長順           |
| 10 | 仁淵堂 | 向昌言           | 22 | 裕光堂 | 毛允良           |
| 11 | □淵堂 | 宜野灣王子朝陽       | 23 | 世祿堂 | 蔡元*           |
| 12 | 通徳堂 | 鄭元偉（瑚城親方）*    | 24 | 靜樂堂 | 毛□龍           |

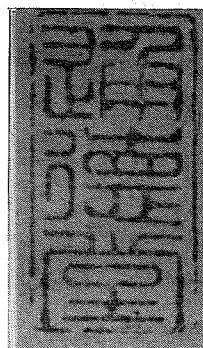
| No | 堂号名 | 堂号使用者 | No | 堂号名 | 堂号使用者      |
|----|-----|-------|----|-----|------------|
| 25 | 翰章堂 | 東肇明   | 28 | 大雪堂 | 程順則（名護親方）* |
| 26 | 繼善堂 | 毛嘉榮   | 29 | 詒穀堂 | 馬文英（幸地里主）  |
| 27 | 一谿堂 | 尚育王   | 30 | 三槐堂 | 王丕烈（國場親方）* |

## 家譜所載堂号

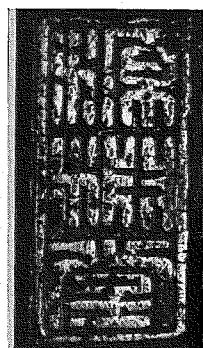
| No | 堂号名 | 家 譜 名      | 備 考              |    |
|----|-----|------------|------------------|----|
| 1  | 義淵堂 | 向性家譜（湧川家）  | 『那霸市史』家譜資料（三）首里系 | 本文 |
| 2  | 善淵堂 | 向姓家譜（小祿家）  | 〃                | 〃  |
| 3  | 徹淵堂 | 向姓家譜（具志川家） | 〃                | 〃  |
| 4  | 習淵堂 | 向姓家譜（嘉味田家） | 〃                | 〃  |
| 5  | 雲淵堂 | 向姓家譜（伊江家）  | 〃                | 〃  |
| 6  | 寧淵堂 | 向姓家譜（喜屋武家） | 〃                | 〃  |
| 7  | 安淵堂 | 向姓家譜（高嶺家）  | 〃                | 〃  |
| 8  | 元淵堂 | 向姓家譜（米須家）  | 『那霸市史』家譜資料（一）    | 〃  |
| 9  | 嘉瑞堂 | 金氏家譜（阿波連家） | 『那霸市史』家譜資料（二）久米系 | 〃  |
| 10 | 振德堂 | 鄭氏家譜（宮城家）  | 〃                | 扉  |
| 11 | 四本堂 | 蔡氏家譜（具志家）  | 〃                | 扉  |



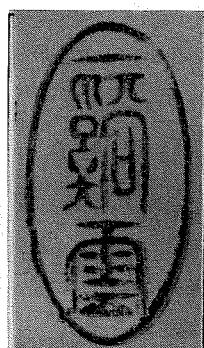
鄭嘉訓閨防印



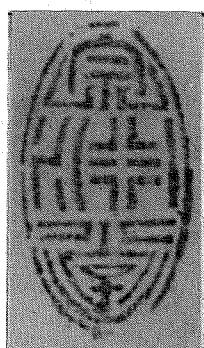
鄭元偉閨防印



尚元魯閨防印



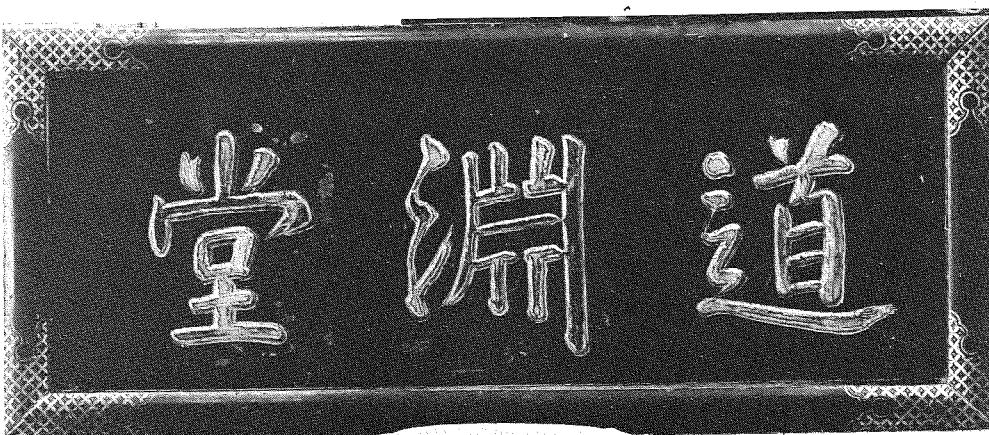
尚育王閨防印



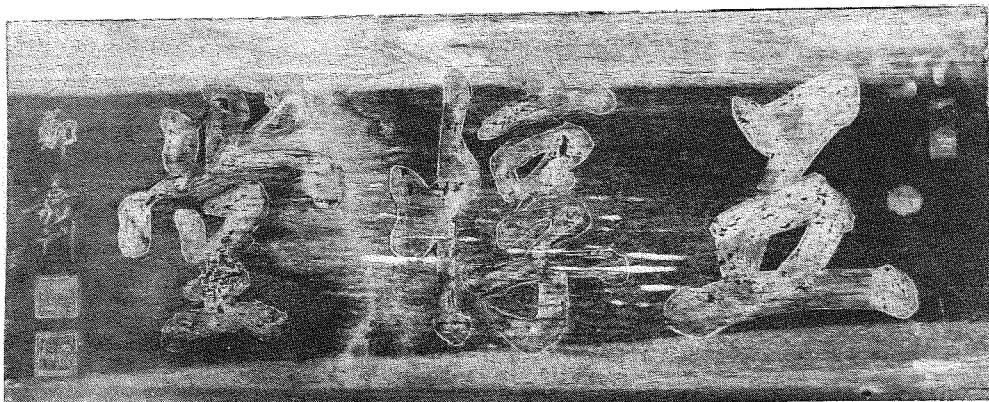
尚慎閨防印



善淵堂



道淵堂



忠勲堂